

平成30年10月17日

横手市議会議長 齋藤 光司 様

広報広聴委員会
広聴分科会長 佐々木 喜一

『市民と議会の懇談会』 報告書

「市民と議会の懇談会」の実施状況を下記のとおり報告いたします。

1. 開催日時	平成30年2月9日（金）
2. 開催場所	横手市交流センターY ² ぷらざ 研修室2
3. 出席議員	広報広聴委員長 奥山 豊和 広聴分科会長 佐々木喜一 厚生常任委員長 高橋 和樹 広報分科会委員 土田百合子
4. 申請団体	横手市の子育て団体等関係者
5. 参加人数	9人
6. テーマ	子育てを支える環境づくりと課題について
7. 懇談会の内容	司会：横手市議会厚生常任委員会 委員長 高橋和樹 ①議会側の参加者の紹介 ②出席者からの自己紹介 ③意見交換

8. 意見交換の主な内容

■経過説明

- ・数年前、横手市が日本一子育てしやすい街にランキングされたが、実際の子育て現場の実情を聞くことに主眼を置いて意見交換を行った。

■主な意見

【通学路の除雪について】

- ・横手地域の通学路等の除排雪が全然進んでいなくて、子どもにも聞いたのだが危険な状態、車が突然

出てきたりして。今、かまぐらイベントにあわせて除排雪してくれているのか分からないが、でも通学路が確保できていない状態で車道を歩いている状態。やり方を変えなければいけないのではと思う。

【学童保育について】

- ・学童保育の教室は、具合の悪い子供が静養できるスペースがなかったり、トイレの設備が良くない場所が多い。面積要件を満たしているからOKという考えではなく、子どもたちのことを考えた環境にしてほしい。そういった課題点を訴えても学校の先生が代わってしまうとまた一からになる。現場を見てほしい。
- ・特に学校関係機関と市役所の連携はもっと必要と思う。
- ・本当に学童保育を必要としている世帯はもっと少ないように感じる。現状は詰め込みすぎではないか。特別学級や児童間のコミュニケーションで学校側が配慮しているような子どもでも学童保育では一緒にならないといけない。トラブルが起きやすい状況になる。こういった点の改善も必要だと感じている。
- ・所得と関係なくお金が一律5,000円なので、誰もがお願いしたいという方向になっている。
- ・横手の現状は学童保育以外の選択肢が少なすぎる。
- ・秋田市などは民間が学童保育を実施しているところも多く、設定料金は高いが選択肢になっている。障がい児の受け入れ態勢も含めて横手は行政だけの運営というところにも課題があるのではないかな。
- ・子育て支援課も場所となる建物の確保に苦慮しているようだ。公共施設をもっと学童保育に解放できないだろうか。
- ・校長先生が代わるたびに考え方が変わるというところをどうにかしてもらわないと。

【地域における子育てへの関わりについて】

- ・少子高齢化により空家も増えてきている。近所のお爺さんお婆さんが空家を活用して、自分の孫を見るように子供たちの相手をするような取り組みができないだろうか。お年寄りも生きがいになるかもしれない。子供たちが歩いて通える場所としてそういうところが各地区にあると安心に思う。

【小学校期の子育てについて】

- ・横手市は子育て環境の面で充実していると感じることはある。保育の現場はきちんと定員が守られていて無理がない。就学前については誇れる水準だと思うが、一方で「小1ギャップ」も見える。保育園、幼稚園で丁寧な扱われた反動で小学校の環境に親も含めて対応できない。部活時間の長い中学校に比べ、小学校は長期休みも長いし年数回のスキー授業対応の負担もある。一方で市民プールもスキー場も使えない状況だ。小学校6年間をどうしていくかというところに課題があるように感じる。

【公共施設の整備について】

- ・大鳥プールと横手スキー場の復活は強く望みたい。
- ・横手スキー場はリフトが使えなくても、そり遊びでもよいので使いたい。
- ・天下森スキー場の中腹のヒュッテはなぜ使わないのか。
- ・横手の人たちは温かい。子供の声がうるさいということは言わないと思うので、空きスペースを駐車

場にするのではなく公園にしてもらいたい。まんが美術館も図書館を移転するのではなく2か所にしてもよかったのではないかな。ただ、今の地域局にある図書館は小学校にも近くて使いやすいと思う。

- ・市民会館の老朽化もひどい。横手は文化施設の予算が少なすぎると思う。
- ・わんぱく館や朝日が丘の児童センターなど子育てに必要な施設がどんどん廃止されようとしている。その施設がなぜ建てられたかを考えてもらいたい。お金がないなら、企業やNPOなどとコーディネートをして作り出すことも議員や行政の役割だと思う。

【その他の意見】

- ・子育てをする母親の意識も変えていく必要を感じる。母親教育をやってはもらえないか。
- ・途切れ途切れの支援ではなく、一人の人間を生涯にわたって連続して守っていく政策であってほしい。
- ・中学生や高校生などの早い時期に横手のすばらしさを伝えることが必要ではないか。そうすることで一度横手を出て行っても、子育てのために帰ってきてくれると思う。横手の充実した子育ての仕組みをもっと一元化して謳うことで不安のない子育てができるのではないかな。
- ・乳幼児健診が無料ということは他からものすごくうらやましいといわれる。こういう良いことがなかなか表に見えていないのではないかな。もっと胸を張って前面に出してもらいたい。

9. 懇談会の様子



